ミュージカル研修

～ブロードウェイの歴史と文化を知る～

平成 26 年 10 月

織田　彩耶子

１．ニューヨークの歴史と文化

今回の遊学は、私にとって初めてのニューヨークで、初めての海外への一人旅でした。そこでまず感じたことは、そこにいて生活しただけで感じられた、ニューヨークの歴史と文化でした。私にとっての海外はテレビの中の世界のように感じていましたが、実際にそこで生活したことにより、ニューヨークの建物が、人が、空気が、現実味をもって感じられるようになりました。

ニューヨークの建物は、古いものがたくさん残っており、小さなマンション一つでも彫刻が施されている様には、この街の歴史や重み、石の冷たさ、芸術性といったものを直に感じることができます。

ニューヨークは危ないとも言いますが、私が一ヶ月生活し率直に感じた印象としては、ニューヨークのひとは優しいという印象でした。日頃から、目が合えば知らないひとでも「Hi」と声を掛け合い、帽子を忘れそう、ホームがわからない、電車に取り残されそうなど、ちょっとしたことでも、困っていれば必ず誰かが声をかけてくれるので、実際に私も何度も助けられました。例え危ない目に遭ったとしても、人がいるところであれば必ず誰かが助けてくれるであろう、と思わせるものがありました。見方によっては、知らない人は知らない人、危ないことには見て見ぬ振りで自分を守ろうとする日本人よりも、ニューヨークの人の方が優しいところもあるのかもしれません。

また、ニューヨークのひとはそれぞれが自分の価値観や正義感に信念をもち、それに誠実に生きているように感じました。みんなが避けている人に対して一人が率先して声をかけるなんてことはよく見かける光景で、みんなが No と言うから No、Yes と言うから Yes と言うのではなく、全員が No と言っても誰かひとりが Yes と言う、全員が Yes と言っても誰かひとりが No と言うということが容易に想像できました。それには、一人ひとりが確固たる思想を持っていて、それを示して良い国なのだという印象を受けました。

自由な街として知られているニューヨークの空気を、人によっては軽いと感じる人もいると思いますが、私は、歴史を感じさせ、社会問題等も未だ身近なところにあるこの国の空気を、重く重厚であるように感じました。

私は、ブロードウェイで『レ・ミゼラブル』というミュージカルを鑑賞しました。この作品の舞台はニューヨークではなくフランス革命の学生運動を描いた作品ですが、この作品をブロードウェイで観て、歴史と文化の違いというものを強く感じました。

私は、ミュージカル・アカデミー卒業時にこの作品に取り組みましたが、自らの命をかけて自由のために闘うということが、現在の日本というとても発達して恵まれた環境で暮らしてきた私たちには想像ができず、一番思い悩みました。ですが、今回ニューヨークに来て外国の空気を実際に感じ、その国でこの作品を観て、現在もなお古い建物や格差の残る社会で実際に生活しているからこそ表現できる建物や衣服、言語、人、空気のリアリティ、それぞれが正義感をもち、いざ誰かが立ち上がったらみんなが立ち上がるかもしれないということを想像させる思想のリアリティというものを感じました。これは、日本で生きている私たちには到底生み出すことのできないものかもしれません。

私たちは日本という便利で恵まれた島国に住んでいるので、つい目先の問題に捉われワールドワイドな視野を失いがちですが、世界に目を向け、実際にその生活を体験しその思想や文化に触れることにより、その思考力や表現力は広がるのだと強く感じました。

ミュージカルやオペラは外国を舞台にしたものが多いので、ここにきて私が外国の文化や歴史の違いを身をもって感じられたことは、今回得たとても大きな財産となりました。

２．ニューヨークの生活と文化

今回、私は、マンハッタンから離れたロングアイランドといところにある、日本人のご家族のお宅に滞在させていただきました。この地域には駐在などの日本人やアジア人の方がたくさん住んでおり、日本人にも暮らしやすい環境なのだそうです。私は、ニューヨークで実際に生活されているご家族のお宅でお世話になったことにより、普通では体験することのできなかった日常生活における文化の違いを体験し、知ることができたと思っています。

ご家族は６人家族で、四人姉妹のうちの上のお二人は現在日本の大学に通っているということでした。ニューヨークで生まれて育った子供たちは日本に憧れをもっているそうで、ニューヨークにきて

日本という国の魅力を感じることもできた気がしました。日本にいると海外に憧れを抱きますが、海外で暮らしていれば、日本に憧れをもつこともあるようです。ニューヨークの家にいる二人のお子様には、英語を教えてもらったり、ニューヨークの生活について教えてもらったりと、とても勉強になりました。

ニューヨークの物は洗濯機から日用品から食品まで大容量で大きいです。日本は物をコンパクトにする技術が発達していますが、土地が広いアメリカでは、その必要性を感じないそうです。ニューヨークには自然が多く、野生のリスやウサギともたくさん出会いました。そんな日常の些細なことから、学校のこと、風習のこと、宗教のことなど、たくさんのことをその食卓で教えていただきました。

こちらでお伺いしたお話の中で、特に印象に残っているのは、音楽教育の違いについてでした。お子様方が通っていた学校では、歌や踊りが好きな子どもが多く、小学校からミュージカルクラブがあり、中学校の演劇部のミュージカル公演はかなり見応えがあるそうです。小学校には選択でオーケストラの授業があり、四女の怜ちゃんはオーケストラの授業とチェロのグループレッスンも受けていて、バイオリンとチェロ、ウクレレ、ギターが演奏できるとのことでした。

また、四人の子どもたちはピアノのレッスンも習い事として習っているそうなのですが、アメリカのあるメソッドに則った日本人の先生に師事しているとのことで、ただ楽譜を読んで弾くのではなく、楽典的な部分にもかなり踏み込んだ指導を受けていました。日本にもいろいろな先生がいるので、これを見て一概に日本はこう、アメリカはこうと言うことはできませんが、ここに来て今までに出会ったことのない音楽の指導方針に出会ったことにより、そういったメソッドで教育を受けた子どもの考え方の違いや、異なったメソッドで勉強してきた子どもに教えることの難しさなどを発見することができました。

３．ニューヨークの英語と人との出会い

私は今回ニューヨークで遊学するに当たり、今まで苦手としていた、英語での歌唱に挑戦することにしました、苦手の要因は、発音です。これを機に克服したいと思い、ニューヨークでは、英語の理解力を高め、発音を磨くことを目的に、American Language Communication Center という語学学校に２週間通い、マスター英会話とアクセント・リダクションという二つのクラスを受講しました。

ニューヨークでは様々な国の人に出会い刺激を受けましたが、ニューヨークで出会った日本人の方から受ける刺激も大きかったです。ニューヨークにいる日本人の方は、何かしらの夢や目標を持ってニューヨークに来ていて、志が高く、実際にニューヨークで教えたり演奏活動をしている方にもたくさん出会いました。そんな日本人の方との出会いが、この語学学校にもありました。写真右の方は、ニューヨークで出会った、日本の有名人の方です。劇団乾電池を率いる方ですが、偶然マスター英会話のクラスで一緒になり、演劇のことや。ミュージカルのことなど、様々なお話を聞かせていただきました。

マスター英会話のクラスは､外国人が多く､一見英語を上手に喋れているように見える外国人にも、よく聞くとそれぞれの国の訛りや苦手とする発音があるのだということに気がつきました｡とはいえ、日本よりも英語に発音の近い言語が母国語であることがほとんどなので、その中で勉強していると、自分の発音もそちらに吸い寄せられ､外国人が多い環境で勉強できるということの良さを感じました。もちろん、互いに未完成な英語でセンテンスをつくり、文化や意思の交流ができることは、外国人と英語を勉強することの大きなメリットです。

また、外国人が英語をぺらぺらとしゃべれているように聞こえるのは、必ずしも発音のせいだけではない気がします。日本人は細かい文法や発音に捉われがちですが、外国人のクラスメイトがぺらぺらと喋っている英語も、よく聞けば発音や文法が間違っていて、伝わっていない時もあります。それでも積極的に話そうとするかという違いだと思いました。間違っていてもたくさん喋るのとなにも喋らないのとでは､どちらがより伝わるかは一目瞭然です｡細かいことに捉われず､とにかく発信しよう、実際に会話しようという姿勢には学ぶものがあるとおもいました。

この授業では先生が読み上げる英語をリピートすることが多かったのですが､簡単な単語や文でも、先生の綺麗な発音の後に続いて声に出すことは、とても良い発音の訓練になりました。日本で英語を学ぶときにも、是非このような環境で学習し、またニューヨークに戻ってきたいと思っています。

４．ブロードウェイのダンスレッスン

私はニューヨークでBroadway Dance Center、Steps、Ballet Artsの３つのダンス教室に通い、合計約30回のレッスンを受けました。フリーの回数券で様々なクラスを受講しましたが、それぞれの教室は雰囲気が異なり、Broadway Dance Centerは機能的な新しく大きなスタジオ、Stepsはトラディッショナルな雰囲気のスタジオ、Ballet Artsは日本人が多く学びやすいスタジオという印象を受けました。いずれのスタジオも、様々な国から様々なひとが様々な目的で集まっており、それぞれが自由に学べる雰囲気を感じました。

ブロードウェイのダンス教室は、本当に様々なひとが来るので、私のように回数券で受講している人もいれば、コンスタントに毎週同じレッスンを受けている人、附属の学校に入学して毎日クラスに出ている人、教室の短期プログラムを取っている人、数日間の旅行で単発でレッスンを受けていく人などもいました。私はもとからダンスはあまり得意ではないので、言葉のわからないニューヨークで更に気弱になり、スタジオの鏡で外国人の容姿と比べては落ち込み、どんどん自信をなくしていました。そんな時、バレエのクラスで初めて一緒になった外国人の方が、レッスン後に「You looks pretty!」と声をかけてくれました。私の黒い髪や、肌について褒めてくれ、自信がないと言う私に、「Trust me!」と言ってくれ、私はとても温かい気もちになりました。半ば日本人であることにすらコンプレックスを感じていた私ですが、彼女との会話を経て、もっと自信を持っていいんだ、と思うようになりました。Noと言う人もいればYesと言う人もいるニューヨークで、自分で初めからダメだと決め付けてしまうのはとてももったいないことだと感じました。それからは、ダンスのレッスンも、下手でも堂々と踊っていいんだと思えるようになり、楽しくなりました。

５．ブロードウェイの歌唱レッスン

ニューヨークでは、自分の良いところ、悪いところが浮き彫りになり、自分がいま何ができていて、何ができていないかということをはっきりと認識できます。私は、ダンスのレッスンでは落ち込みましたが、歌のレッスンでは、少し自信を持つこともできました。

私はBroadway Dance Centerでダンスの他に、合計11回のヴォーカルレッスンを受講しました。外国人の先生が教えるクラスで、ブロードウェイの発声を学びました。授業はソロ・パフォーマンス、アンサンブル、オーディション・パフォーマンスと３種類あるのですが、ソロとオーディションのクラスは、オーディションやコンサートを想定して、一人ずつ全員の前で歌うという授業でした。ダンスの授業同様、いろいろな国からいろいろなひとが来ているので、レベルも歌う歌も歌い方も様々で、聞いているだけでもとても勉強になりました。

英語の歌唱に自信がない私にとって、ネイティブを含むたくさんの外国人の方の前で英語の歌を歌うことはとても勇気の要ることでした。聴かれていることを意識してしまい余計に英語が片言になってしまうことも多々あり、緊張して表現まで至らないことがほとんどでした。ですが、高音がうまく決まったときにはみんなが拍手をくれ、国は違っても、発音がままならなくても、やはり良いものは良いと認めてもらえるんだと感じ、ミュージカルにおける頭声の歌唱にはかなり自身がつきました。また、何回もクラスを受ける内に、先生に直していただいて発音も少しずつ改善され、良くなったと

言っていただけることがそのまま自信に繋がりました。

今回私は、ニューヨークに行くに当たり、約 20 曲の英語の曲に取り組み、その内の計７曲をニューヨークで人前で歌いました。この事は、今まで英語の曲に苦手意識を持ち英語での歌唱を避けてきた私にとって、大きな成果の一つだと思っています。

私は、この他に、セロップ音楽教室という所で週１回、合計４回の声楽の個人レッスンを受講しました。先生は、日本の音楽大学からニューヨークの音楽院に編入して勉強された日本人の若い先生でしたが、現在もニューヨークの舞台で活躍してみえる方で、発声の基礎である脱力から、音域の広げ方、アジリタと呼ばれる高音の細かいパッセージの歌い方など、少ない回数のレッスンでたくさんの事を教えていただきました。これには、とてもわかりやすい成果が出ていて、私は、レッスンが終わる頃には、今までできなかったアジリタのパッセージが楽にできるようになり、帰国後には、自分の高音域が今までよりも長二度上がり、Hi-F まで出せるようになっていることに気がつきました。

私は、自分の歌にまだまだ可能性があることを感じることができたので、これからも先生に教わった訓練法を続け、より自分の可能性を広げていきたいと思いました。

６．ブロードウェイのミュージカル

ニューヨークで私は、９本のミュージカルとオペラを２公演鑑賞しました。それぞれの作品を、下に簡単に解説させていただきます。

● オペラ座の怪人

ニューヨークで最初に観た作品。圧倒的歌唱力と迫力、画としての美しさに感動。

● シカゴ

シンプルでスタイリッシュなつくり。フォッシースタイルのダンスを堪能。

● シンデレラ

シンデレラの姉役で日本人の活躍する姿が。主役に芸能人を起用しているところに商業性を感じた。

● アラジン

エンターテイメント性が高く、子供から大人まで楽しめるミュージカル。舞台セットも美しい。

● レ・ミゼラブル

歴史や文化を感じさせるリアリティの高さとその迫力に圧倒された。

● IF/THEN

イディナ・メンゼルの歌が生で聴ける。全体としての歌唱力が高く、音楽で楽しめるミュージカル。

● Fantasticks

今回観た唯一のオフ・ブロードウェイ。箱は小さく客数も少ないが、クオリティは高い。

● Once

劇場に入った瞬間から劇場自体がアイリッシュパブのようになっており、出演者の演奏が楽しめる。

■ メトロポリタン歌劇場

壮大で高級感のある劇場。『カルメン』と『ラ・ボエーム』を観劇。

イタリアでオペラを観た時にも感じましたが、やはり劇場の響き方が日本の劇場とは違うと感じました。オペラでは、日本の劇場ほど直接的に会場全体に響くのではなく、舞台で綺麗に鳴っているという印象を受けます。

ミュージカルの劇場はまた異なり、日本の劇場よりも小さいので、出演者の顔や表情がよく見えました。劇場の大きさや響き方によって歌い方は大きく変わってくるので、日本では日本の劇場に合った、ニューヨークではニューヨークの劇場にあったパフォーマンスが求められるということを感じました。

ブロードウェイでは、実力派のミュージカル俳優の歌声を生で聴くことができ、日本のミュージカルの発声や演技との違いも感じ、とても勉強になりましたが、ブロードウェイも、役者の組合が強い

ためチケットを捌かなければならず商業化してきているという話も聞きました。芸術と商業は、かけ離れた場所にあります。日本のミュージカルも、商業化している部分は大いに見受けられますが、ブロードウェイですら同じ問題を抱えている部分があるということを知りました。

7．ニューヨーク遊学を終えて

ニューヨークでは、上までに記したように、書いても書ききれない程たくさんのことを学びましたが、たったひとりで旅をして、毎日ただそこにいるだけで刺激を受けられる環境にいられたことが本当に幸せだったと思います。

ニューヨークは自身の身の程を知る場所です。ニューヨークに行って自分の小ささや頼りなさを感じました。と共に、そんなちっぽけな自分のために多くの方が支えてくれてそこにいられた、いまここにいるのだということを強く感じています。

この遊学を企画し支援してくださった岐阜県の遊学支援制度の方々、一ヶ月の間泊めていただいた江川さんご家族、協力してくださった先生、友達、ニューヨークで出会ったたくさんの方々、そして後押ししてくれた自分の家族。この場を借りて、この遊学に携わった全ての方にお礼申し上げます。どうもありがとうございました。

私はこの遊学で学んだことを心に留め、更に成長していきたいと思います。

Broadway Dance Center のヴォーカルクラスの皆さんと